

平成 29 年度 第 5 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

[問 1] 事例 I と II はキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例 I と II の違いを下記の 5 つの語句を使用して解答欄に記述せよ。(焦点 受け止め 自己概念 共感 目標)
(15 点)

事例 I では、Cct は CL の納得のいかなさや落胆などの内面の深い感情を受け止めようとせず、コンサルティングの目標を「急いで転職先を見つけること」に設定し、CL の表面的な言葉のみに焦点を当て、「転職」に向けた断定的な展開である。一方、事例 II では、言葉の意味、気持ち、感情に寄り添い共感していくことで、CL が自らの感情に距離を置き客観視できるようになり、自身の自己概念を修正し、CL 自らがこれからの働き方について決断できるよう促す展開となっている。

[問 2] 事例 I の Cct4、Cct5 と事例 II の Cct4 のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15 点)

事例 I Cct4 相応しくない

「納得いかない」「まさかと…」 「寝付けませんでした」などの CL の内的感情に寄り添うことをせずに、上司に関する質問をしてしまうことで、CL の内省が中断されてしまう応答である。

事例 I Cct5 相応しくない

今の会社での問題を解決することなく、転職先の会社について CL に質問することで、一方的にコンサルティングの方向性を転職に向けてしまう応答である。

事例 II Cct4 相応しい

「ハズレくじを引く」という CL 独特の感情表現に焦点を当てることで、内的感情を言語化し、CL の内省を促す応答である。

[問 3] 事例 I ・ II 共通部分と事例 II において、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。(10 点)

会社側の評価基準を確認することなく、また、上司にも相談せず、海外転勤は栄転、国内転勤はハズレくじ、との思い込みがあり、頑張ったことが評価されないのであれば転職と、短絡的に考えていること。また、今ここでの視点でしか仕事について考えられず、中・長期的な視点で仕事を捉えられていないこと。

[問 4] 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。(10点)

頑張れば報われると思い、今までやってこられたことを労い、会社での評価基準について、また相談者が国内転勤先で何を求められ期待されているのかについて、人事や上司に尋ねてみることを提案する。また、職務の棚卸しをすることで自身の弱み強みについて明らかにし、転勤先での勤務に活かしていくよう促す。併せて、「地方でも大きい仕事をしている先輩」をロールモデルとし、自身の現状や気持ちについて相談することで自己評価を上げ、前向きに仕事に取り組めるよう支援していく。